

ラーラスクエアリピーターの方から第10回の感想が寄せられました

「今日は赤紫の三山霧島つつじがぎっしり咲いているのを見て、レザさんが見せてくれた紫の花の祭りを思い出しました。
アフガンの人々が祭りを楽しみ歌舞を楽しみ食事を楽しみ家族と過ごしお話を聞く、それで十分幸せになるのに。奪って人々を萎えさせていくタリバンには国を治める資格はないと思います。
国は人でできているのだから。」

忘れないで、アフガニスタン！

ラーラスクエア第11回 シルクロードシリーズ

日時：2026年10月18日（日） 20:00 -21:30
オンラインイベント

タリバンを深く理解する — 彼らとは何者なのか、なぜ内部に多くの対立が存在するのか、そして何を目指しているのか？
タリバンの歴史的背景、内部構造、そして現在の統治に影響を与えている要因について考察します。

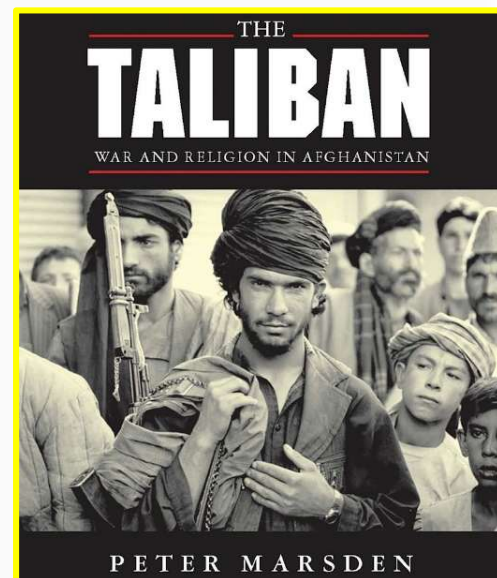
★内容

- ・アフガニスタンにおけるパシュトゥーン人の歴史的支配
- ・パシュトゥーン社会における派閥争いと部族間対立
- ・タリバン誕生に至る経緯
- ・歴史的部族対立が現代のタリバン政権に及ぼす影響

★セディゲさんのスピーチ（予定）

アフガニスタンの歴史・政治・社会を理解したい方、ぜひご参加ください！

申し込み：mrz. eedak@gmail.com



ピーター・マースデン著
「タリバン」
アフガニスタンにおける戦争と宗教

事務局よりお願い

- ・P1で2026年度も会費は頂かないことをお伝えしました。もし会費をお送りいただいた場合は、誠に勝手ながら全てご寄附とさせていただきます。どうぞご了承ください。
みなさまの変わらぬご支援に心から感謝いたします。
- ・ラーラ通信を発送したのち「宛所に尋ね当たりません」というスタンプが押され、戻ってくる件数が増えています。お手数ですが、転居される方は、新住所をmrz. eedak@gmail.comに、お知らせくださいますようお願いいたします。

アフガン支援ラーラ会

代表：柄子レザ

Mail: mrz.eedak@gmail.com

URL: <http://lala-afg.org>

郵便振替口座番号：00930-5-249417

加入者名：アフガン孤児支援・ラーラ会

年会費：3000円（8月～翌年7月末）

運営委員の募集を継続しております！！

ラーラ通信企画編集、ラーラスクエア企画実行、名簿管理等に協力してくださる方を募集いたします。
関心のある方は、レザさんに連絡し、一度運営委員会を覗いてください！



ラーラ通信 53号

2026年8月10日発行

خونامه لوله

写真：（左）ヘラートで女性を拘束するタリバン。（右）ヘラートで発砲するタリバン兵。出典：リナ・ロズビ・ハイダリ氏（記者）。

アフガニスタンだより

ヘラートでの事件：抗議活動とタリバンによる弾圧

2026年6月9日、アフガニスタンのヘラートでは、タリバンによる服装規定違反を理由とした女性や少女の拘束に対する市民の怒りが高まり、ここ数か月で最大規模の反タリバン抗議活動の一つが発生しました。この出来事背景には、2026年3月以降タリバンが強化してきた取り締まりがあります。これには、服装の検査や、音楽や映画など「非イスラム的」と見なされるコンテンツが含まれていないかを確認するためのスマートフォン検査の強化が含まれていました。

抗議活動は主にヘラート市ジェブライル地区（Zさんと家族が住んでいる地区）で行われ、6月7日から8日にかけて、ブルカを着用していなかったことや男性の同伴者なしで移動していたことを理由に、少なくとも30人の女性が拘束されたことが発端となったと報じられています。Zさんによると、タリバン治安部隊は抗議参加者に向けて発砲し、その結果、女性1人、子ども1人、10代の少年1人を含む4人が死亡し、20人以上が負傷しました。また、負傷した抗議参加者を捜索するためにタリバン当局が病院を調べ、一部の参加者の家族も拘束したとの報告があります。

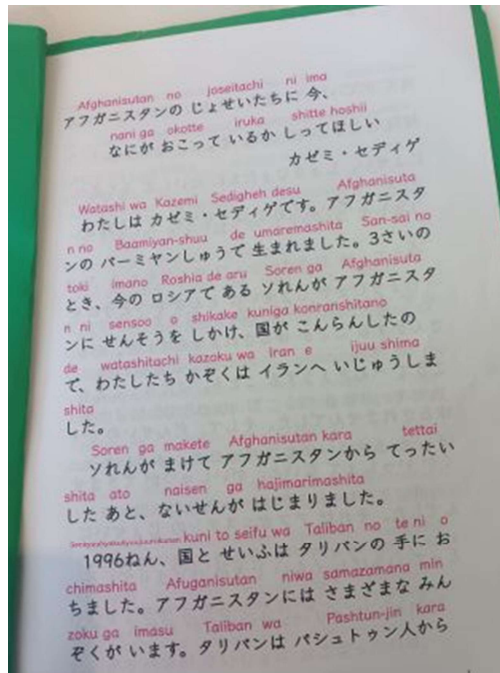
ソーシャルメディア上で共有された映像には、抗議者たちが「教育・仕事・自由（Education, Work, Freedom）」と唱える一方で、タリバン部隊が群衆を解散させるために発砲する様子が映っていました。

Zさんはこれまでのタリバンとの経緯を考慮し、抗議活動には参加しませんでした。本人や家族への報復の可能性をなくすため、目立たないよう慎重に行動したとのこと。

レザ

2026年度も会費はいただきません

今ヘラートの状況は非常に悪化しています。現地協力者の方々の安全を考え、再度支援停止を決定しました。会費は2026年度も頂かないことをお知らせいたします。



セディグさん原稿

あるアフガン女性の思い

2019 年夏、タリバンから命を狙われた人権活動家の女性とその家族が、日本に逃れ難民申請をしました。数か月後に異例の速さで難民と認定され定住者の資格を得ましたが、言葉も文化も習慣も全く違うこの国で日本語を学び、仕事を見つけ、子供の教育に気を配り、彼女と家族は大変な努力を重ねてきました。

以前から日本の人々にアフガニスタンの女性たちの現状を知ってほしいという思いを抱いてきた彼女は、今回日本語で書いた作文をララ通信に寄せてくれました。会員の皆様にぜひ読んでいただきたいと思います。

アフガニスタンのじよせいたちに今、なにがおこっているかしてほしい カゼミ・セディグ

わたしはカゼミ・セディグです。アフガニスタンのバーミヤンしゅうで うまれました。3さいのとき、今のロシアであるソれんが アフガニスタンに せんそうを しかけ、くにがこんらんしたので、わたしたちかぞくはイランに いじゅうしました。

ソれんがまけて アフガニスタンから てったいたあと、ないせんがはじまりました。

1996 ねん、国とせいふはタリバンの手におちました。アフガニスタンには さまざまな みんなぞくがいます。タリバンはパシュトゥンじんから出てきています。わたしたちハザラ人は一ばんおおくろされしました。そして、こくみん、じよせい、しょうじょたちにたいしてよくあつてきでじだいおくれなほうりつがつくられました。

しょうじょやじよせいは どんなかつどうにも さんかすることがゆるされませんでした。がっこうでべんきょうすることも、はたらくこともゆるされませんでした。それはアフガニスタンのじよせいにとっていちばん くらいじきのはじまりでした。2001 ねんにタリバンせいけんがたおれ、アフガニスタン・イスラムきょうわこくができたことで、じよせいがしゃかいで かつやくできるようになりました。タリバンの きょうはくや ぼうがいはありましたが、しょうじょやじよせいたちは がっこうや だいがくでまなび、いろいろな かつどうをすることができました。わたしは 2003 ねん、ぼこくにもどり、しょうじょやじよせいたちと きょういくや、じんけんのかつどうを つづけました。

ところが 2021 年にタリバンが もういちどけんりよくを にぎることになってしまいました。タリバンがさいしょにおこなったのは、じよしちゅうがっこう、こうこうのへいさでした。2022 ねん、タリバンは 6 ねんせい いじょうのおんなの子が がっこうへいくことを きんしました。2022 ねんの 12 がつには じよせいの だいがくしんがくも きんされました。なんびやくまんにんもの じよせいから きょういくをうけるけんりをうばってしまったのです。また、じよせいは しごと、しよときょういくや いりょうなど、かぎられたものしかできなくなりました。

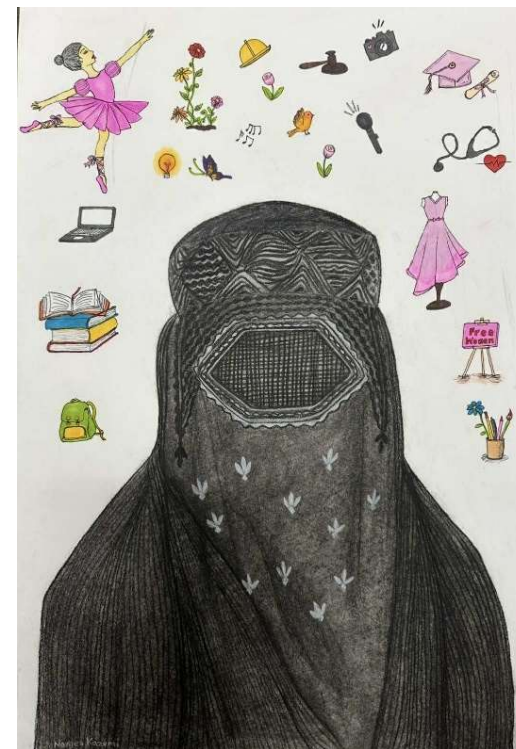
さいきんになって、あたらしい もんだいが できました。ヘラートではブルカのちゃくようの ほうりつがだされたのです。これは タリバンからのめいれいであり、これにしたがわないばあいはいしょばつされます。たんなるきょうせいだったころは、めいれいとはいえなかったのですが、これからはめいれいとして、さらにきびしくなりました。わたしもブルカを 1 かいかぶったことがあります、あつくてがまんできませんでした。

まなびたい きょういくをうばわれ、やりたいことをうばわれたアフガニスタンのじよせいや しょうじょには、ふあんや ぜつぼうかんがあふれ、うつになるひとふえています。タリバンにはんたいするデモをする じよせいたちも いましたが、つかまってどこかへつれられ、おおくのじよせいがころされました。かえってくることもできた人も、ごうもんされてからだじゅうに きずをうけ、こころのびょうきになりました。今、せかいのあちこちでもんだいが おきています。みんなアフガニスタンのことは わすれてしまったのではないのでしょうか。

みなさんにおねがいです。タリバンを こくみんを だいひょうするせいふとして けっしてみとめないでください。わたしは にほんのみなさんに、すこしでもちからになってほしいとおもいます。かのじょたちが いえでこっそりほんをよんだり、インターネットでがくしゅうできるように えんじょをするのも一つのほうほうだとおもいます。アフガニスタンのしょうじょたちや じよせいに ちゅうもくいただき、きょういくをはじめ、よりきぼうにみちたせいかつが できるように、かのじょたちをしえんしていただければさいわいです。

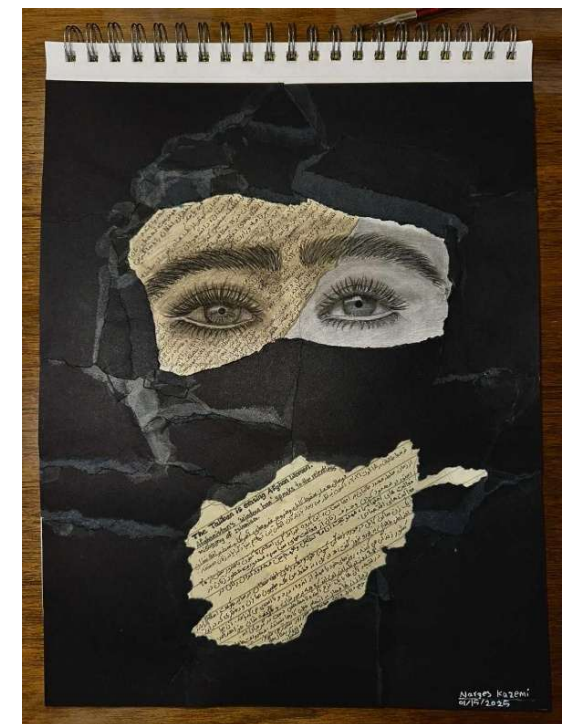
ブルカを着て、口をつぐんで

ナルゲスさんのイラスト



2021 年の夏まで、女性たちの生活はカラフルだったのに、今は重苦しさに耐えねばならない毎日であることが、悲しみをたたえた大きな瞳から伝わってきます。

セディグさんの姪、ナルゲスさんも、人権活動に携わり、危険が迫ってきたので米国に逃れました。今彼女は大学に通っています。



(イラスト内のタリ語の文は、ナルゲスさんの日記。タリバンがアフガニスタンを掌握した後の状況、特に女性の生活について書かれています。)